

商いの新しいものさし

（株）商い創造研究所
代表取締役

松本 大地

第172回

古き良き価値を継ぐ台北

台湾は九州よりやや小さい面積に約2342万人が暮らし、その人口密度は日本の約2倍である。昨年、台湾からの訪日者数は約604万人と過去最高を更新した。15年ぶりに訪れた台北では、アートフルなリノベーション手法による先端ライフスタイルと、住民のエネルギーが混ざり合う朝市での活気ある生活景の新旧のものさしに大きな刺激を受けた。

台湾にはノスタルジックでレトロな建築が多く残り、特に日本統治時代に建てられた建築物はミュージアムや商業施設に転用されている。1982年に文化資産保存法が制定され、以降歴史的建造物の利活用が広がってきた。リノベーションとは既存の建物を改修し、用途や機能を変えて付加価値をつくり出すことであり、ノスタルジックな雰囲気が出すリノベアートは街に時代の旋風を巻き起こしている。

「華山1914文化創意園區」は1914年に建設された酒造工場の跡地をリノベーションし、アートのスペース、カフェ、デザインショップ、広場が融合した複合施設に変わった。10

0年以上の歴史を感じる建物の中には、現代アートの展示や映像シアター、デザイン性の高い豊富なクラフト雑貨、レストラン、カフェ、グリーン修景など園内全体がまるごとアート・ミュージアムという佇まいであった。

「松山文化創意園區」は1937年に建てられた約6・6haの広大なたばこ工場の跡地。1998年に閉鎖したが、2001年に台北市史跡に指定され、10年に再開発された。工場、倉庫、事務所、社宅、託児所や庭園を活かしながら、ダイナミックに新旧が融合したアーティスティックな空間として蘇った。レトロの良さを引き出して独特の空間を作り出し、今ではアートとデザインの先端情報発信地となっている。

隣接地には東京・日本橋「COREDO室町テラス」に進出した台湾の大型書店チェーンの誠品書店による「誠品生活松菸店」が2013年に開業した。4フロアには先端のファッション、書店、生活雑貨、カフェやレストラン、シネマが集積しており、さらに誠品グループのホテルが併設されていた。

この2つの施設には「創意」の文字がある。創意は「新しい独創的な考え」の意味があり、古い建物を単に保存するのではなく、リノベーションによって高品質の商業空間と芸術的活動の場へと進化する独創性を実証した。台湾では気軽にアートの触れられる場所が目立ち、子どものアート教育にプラスの影響や、アーティストを目指す人にとっては作り手になれる機会も多くなる。

台湾でのアートの力による都市再生は、台北だけでなく台中、高雄、台南にも広がっており、日本の都市再開発でのスクラップ&ビルドとは違う、台湾のリノベアートの効果は学ばべき点が多々あるだろう。

一方、気取らない雰囲気のある生活街区では、台湾らしい日常生活の溢れる

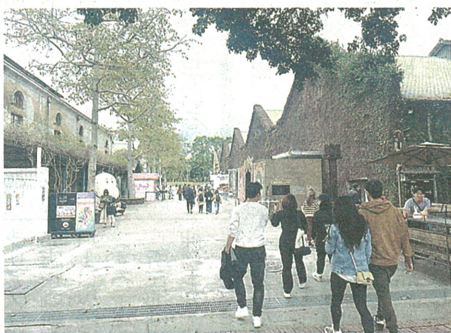
エネルギーを感じた。「雙連朝市（シュアンリエンシーチャン）」は、毎朝、7時から14時30分まで約300mの一本道の両側に、野菜や果物、生花、魚、肉、調理品、農産物、衣服などを売る店が並び昔ながらの屋外市場である。雑多なイメージもあるが、その活気に出会っただけで元気をもらえ市場は、常連客のコミュニティの場でもあった。

朝市では言葉でアピールする口上飛び交い、商品の良さを伝える実演販売、試食や試飲のデモンストレーションが高揚感を作り出す。送り手と受け手の呼吸による対面式販売は祭りの縁日のようであり、その場で購入する行動自体に価値を感じて日常なのに非日常空間の雰囲気から予定外の買い物をする。



自ら靴下を履いて訴える売り手

街の中心にある華山



「華山1914文化創意園區」は1914年に建設された酒造工場の跡地をリノベーションし、アートのスペース、カフェ、デザインショップ、広場が融合した複合施設に変わった。10

隣接地には東京・日本橋「COREDO室町テラス」に進出した台湾の大型書店チェーンの誠品書店による「誠品生活松菸店」が2013年に開業した。4フロアには先端のファッション、書店、生活雑貨、カフェやレストラン、シネマが集積しており、さらに誠品グループのホテルが併設されていた。

この2つの施設には「創意」の文字がある。創意は「新しい独創的な考え」の意味があり、古い建物を単に保存するのではなく、リノベーションによって高品質の商業空間と芸術的活動の場へと進化する独創性を実証した。台湾では気軽にアートの触れられる場所が目立ち、子どものアート教育にプラスの影響や、アーティストを目指す人にとっては作り手になれる機会も多くなる。

台湾でのアートの力による都市再生は、台北だけでなく台中、高雄、台南にも広がっており、日本の都市再開発でのスクラップ&ビルドとは違う、台湾のリノベアートの効果は学ばべき点が多々あるだろう。

一方、気取らない雰囲気のある生活街区では、台湾らしい日常生活の溢れる

エネルギーを感じた。「雙連朝市（シュアンリエンシーチャン）」は、毎朝、7時から14時30分まで約300mの一本道の両側に、野菜や果物、生花、魚、肉、調理品、農産物、衣服などを売る店が並び昔ながらの屋外市場である。雑多なイメージもあるが、その活気に出会っただけで元気をもらえ市場は、常連客のコミュニティの場でもあった。